

新体制になって



◆新役員◆

- 会 長 荻原 武一(赤城グリーン株)
- 副 会 長 須永 敏明(株共栄緑化)
- 副 会 長 萩原 信行(萩原造園土木株)
- 副 会 長 櫻井 幹男(櫻造園株)
- 専務理事 岡田 友子(群馬緑化株)

当協会は、平成24年4月1日付で一般社団法人群馬県造園建設業協会となり、荻原会長のもと新体制で活動を始め9ヶ月経過致しました。

立上げ以来長い間築き上げてきた協会の歴史を活動の基本財産として大切に継承しつつ、業界を取巻く環境の変化等に速やかに対応できる体制を構築すべく、一步一步着実に歩みを進めてまいりたいと思います。

協会活動を通して、緑豊かな県土整備の一翼を担い、人々の癒しの空間を提供し、私達会員が誇りを持って仕事を続けていける様、微力ではございますが努力をしておりますので、皆様のお力添えの程、よろしくお願い致します。(専務理事・岡田 友子)

群馬県都市緑化祭
ふるさとキラキラフェスティバル
花と緑のぐんまづくり
2012 in 前橋



2012年4月14日～5月13日まで、前橋公園緑の散策エリアにて、花と緑のぐんまづくり2012 in 前橋が開催されました。当協会としては、協賛団体として積極的に後援させて頂くと共に、前橋市内の協会員を中心に、前橋駅前～前橋公園までの会場各地の花壇作り、維持管理等を行い、大会をサポートさせて頂きました。

駅前では動物のトピアリーが会場へ向かう人達をお出迎えしました。また、前橋公園では、前橋市制120周年を記念した120の文字を描いた花壇や、ぐんまちゃんや、前橋市の『ころとん』を多肉植物で描いた花壇、牧場や池をイメージしたメルヘン花壇など、華やかな花壇が複数作成され、会場を賑わせました。

今年の会場は、伊勢崎市に決定しています。今後も、群馬県の緑化推進、造園業の発展のため、大会の成功に向けて努力していきます。

(株中村造園・中村 一博)



ホリデーイン前橋



8月19日(日)、『第38回ホリデーインまえばし』が前橋市内の敷島公園で開催され、群造協青年部として参加しました。

『ホリデーインまえばし』は、子供たちの夏休みの思い出づくりの場として毎年恒例の大きな催しとなっていて、多種多様の参加団体が協力し合われています。

例年参加団体として事業の中心に加わる私達青年部は、今回もこの事業の運営と成功に大きく貢献出来たと思っています。

この事業に関する青年部の活動内容は、一年を通して定期的に開かれる会議への出席・打合せ、前日、当日はステージ部会員としてステージの設置準備・撤収作業に尽力し、青年部の担当ブースでは、『竹を使っておもちゃ作り』と題して『竹馬づくり』を企画して来場した子供たちに体験していただきました。



今回は天気にも恵まれ多くの来場者に来ていただき、群造協の活動を広くPRすることが出来たと思っています。

(前青木造園・青木 慎二)

関東四県
公園緑地連絡協議会



平成24年9月21日、群造協を午前11時出発し、荻原会長、荻原副会長、澤口組合理事長、私櫻井計四名で水戸を目指しました。

北関東自動車道開通により、日帰り日程も安易にこなせる距離となりました。水戸南ICを降り、会場の水戸京成ホテルにて昼食を取り、午後2時に受付を済ませ視察先の弘道館公園へ向かいました。大雨の中、徒歩にて約一時間の視察を行いました。

弘道館は、先の震災による被害があり現在も修復中です。その建物周辺や梅林の中を散策しながら弘道館の説明を伺いました。その後、同ホテルの会場にて、公園緑地連絡協議会に参加致しました。茨城県協会長の挨拶、出席者の紹介と事例発表と進行しました。

まず、埼玉県協会より埼玉県庁内『みどりの広場』についてのパワーポイント使用による施工事例発表。事業費9300万円の造園工事は植栽だけでなく、給水工、電気設備工、塗装工も含めた大規模工事であった様子が理解できました。次に、茨城県の協会より東日本大震災による被災と協会の対応と、弘道館の被災状況についての説明がありました。津波の状況やその被害の大きさの報告には、その教訓を生かした取り組みが感じられました。ブルーシート、カラーコーン、土嚢袋などの備蓄もこれからの備えとして、震災から学んだ事であると感じました。続いて、群馬県の協会より、私櫻井が発表致しました。内容は、一般社団法人移行に伴う公益支出計画についてと、造園団体協議会について、私が説明させて頂きました。最後に、栃木県の協会が、放射性物質除染についての説明がありました。土壌のスキ取りだけでは土木業者に発注になってしまうので芝生のリサイクルとして、芝を強く刈り込んで、新しい芽を出し直すことにより、現状の芝のままでも除染できるとし、事業受注をしているということでした。

予定時間をオーバーしての懇談会では、埼玉県の会長より青年部の交流会を、との希望も提案頂き、4県の会長から青年部未来部会発足の共同声明発

表となりました。充実した時間を過ごせ群馬への帰路は、爽やかそのものでした。(櫻造園・櫻井 幹男)

まちなか緑化推進事業



平成23年度群馬県に『花と緑のぐんま推進協議会』『まちなか緑化推進検討部会』が組織されました。目的は①都市の温暖化等について、科学的な見地から調査・研究・分析・検討を行う。②将来の都市環境改善のための緑化技術および施設等の提案を行う。③群馬らしい緑化の在り方の提案です。これを受けて群馬県造園団体協議会に各団体から選出された委員から成るプロジェクトチームを結成し、まちなかの緑について調査・実験・検証を行いました。23年度は『緑の効果・温度計測の実験、並行して無電力ミスト』の実験を、群馬県緑化推進部会・群馬大学工学部・前橋中心商店街協同組合の協力を得て前橋中央広場にて行いました。

計測期間：平成23年7月24日～9月25日の各日曜日

計測内容：5ヶ所の定点で各定点の高さ3点位置で温度計測

設置状況と計測機材



群馬大学天谷教授によるサーモグラフィ計測



群馬大学岩崎教授 資料提供



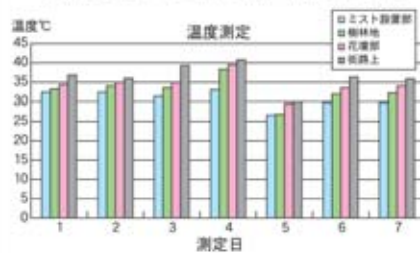
図で示すとおり、ミスト部、樹陰芝地の気温が低い事が確認されました。24年度は場所を高崎に移し、8月、9月の2か月間『街中におけるみどりの効果の実証実験』を群馬県・高崎土木事務所、高崎中部名店街、スズラン百貨店の協力を得て同店の駐車場にモデル緑地を設置し、緑の美しさ、涼しさを体感して頂くと共に、温度計測、アンケート調査を実施致しました。

実験場所：施工前



モデル緑地：設置後

次表は7回の温度計測の結果です。



街路上に比べ樹林地では、平均-3.4度の温度差が計測され樹木が陽を防ぎ気温の上昇を抑えている事が前年度の計測結果同様判ります。

またアンケートの結果では、緑の効果について次表のような結果が得られました。



涼しさ、安らぎ、と共に街のにぎわいの創出の要素となっている事が窺えます。また実験中に、蝶・蜂・バッタ等が見られ生物の多様性の場にも成っていました。

今後、街中の緑の必要性についてデータに基づいた説明を行い、維持管理のコスト意識(アレルギー)を変えていき、緑の必要性、質と量の議論を深めて行く事が緑に携わる者の使命であると考えます。二カ年に亘ってご協力頂いた方々に感謝申し上げます結果報告とさせていただきます。

(南双葉造園・茂木 一彦)

関東甲信造園建設業協会 協議会



10月19日に栃木県にて協議会が開催され、群馬県は会長以下5名が視察・協議会・懇親会に参加しました。

協議会の内容は、各県から予め提案してあった議題にたいして各県の回答を発表する形式で進められました。特に新しい議題としては『社会保険未加入問題』があげられた。対応状況に多少の差はあるようだが、多くはまだ対応策を模索中か検討も始まっていないようである。業種によっては非常に深刻に受け止めているところもあり、今後の検討と対策の実行が必要とおもわれる。もう一つ気になったのは、会社や協会・組合の存続に対するの危惧についてである。異業種によるダンピング・会員の減少・景気の低迷・公共事業の縮減・労働者の高齢化・後継者の業界離れ等々、各都県においても多くの問題を抱えているようである。

解決策の一つとして注目したのは、『緑関係団体』との連携である。方法こそ違おうが多くの都県では他団体と連携して、事業を行っているという報告があった。今後、当協会でも参考にし今まで以上の連携の推進が必要なのではないかと思われる。社会状況が大きく変化し、環境や緑化に対する関心が薄れていく中で造園を業として成り立たせていくには非常に難しい時代に入った事を痛感させられる。明るい話題のほとんど無い会議であったが、現状の認識には役立つものであった。

これからは今までの習慣に縛られる

ことなく新しい事にチャレンジしていく必要があるのではないかと、愚考させられる協議会でした。

尚、次回は群馬が当番県ということで、今回以上の成果を上げられるように願っています。

(株)共栄緑化・須永 敏明

みどりの清掃



天気にも恵まれた10月27日(土)恒例のみどりの清掃活動は18回目を迎え伊勢崎市で開催されました。25年4月開催予定の『花と緑のぐんまづくり』の会場にて実施いたしました。波志江沼周辺及び駐車場を協会員及びその家族74名で清掃ボランティアを行いながら楽しい一時を過ごす事が出来ました。参加された会員から「とってもステキな公園ですね!ぜひともまた来たいですね。」など嬉しい言葉も頂きました。参加された皆様ご協力を有難う御座いました。

(萩原造園土木株・萩原 信行)



安全衛生大会



11月20日(火)当協会と群馬県造園建設業協同組合の共催により、『平成24年度造園建設業務安全衛生大会』を協会・組合員及び造園他団体から約50名が参加し開催されました。群馬労働局・県土整備部都市計画課よりご来賓をお招きし、「今年は災害発件数が増加傾向のため、業界全体での災害防止に努めてほしい」とのご挨拶を頂きました。

第一部の安全衛生講話では、吉田恵洋所長(吉田コンサルタント事務所)よ

り『事故・災害をイメージして災害ゼロ』の達成を、具体的な事故例を基に解説して頂き、2部の健康講話では、中西陽子教授(県立県民健康科学大学看護学部)より『生活習慣病の予防と対応策』としてメタボリックシンドロームに潜む危険因子の説明をして頂きました。

最後に「安全宣言」を読み上げ、災害撲滅に対するより一層の努力を誓いあいました。

(熊倉造園土木株・熊倉 幹夫)



勢多農林高校 インターンシップ受入



例年、群馬県立勢多農林高等学校より、授業の一環としてのインターンシップの受入れが当協会へ依頼されます。今年は前橋市内業者6社、伊勢崎市内業者1社の協会員にて受入れ、10月17日から19日までの3日間にかけて現場実習を行いました。

緑地土木科の生徒たちは初めての職場に緊張気味の面持ちを浮かべながら、日頃の授業の成果を発揮するべく意気揚々と作業に取り組んでいました。雨模様の日もあり、慣れない作業に疲労困憊の様子でしたが、公共緑地や家庭の庭をきれいに喜んでいただくという我々の業種の特性を実感してもらえたのではないのでしょうか。

社会貢献の一環として、また若い世代の人たちへの我々の業界のPRとして、私たちも大変有意義な時間を過ごさせて頂きました。

(株)小泉農園・小泉 雄作



2012 フェンロー国際園芸博覧会 (フロリアード2012) 視察報告



10年に一度オランダで開催される園芸の祭典に当協会有志のメンバーで日本造園建設業協会の研修事業に参加させて頂きました。世界42か国からオランダはフェンローの地で4/5~10/7(186日間)『自然と調和する人生』をテーマとして、会場規模66ha・200万人の入場者を目標として開催されました。

日本国政府の出展ブースは、前回同様非常に高い評価を受けていました。

切花がメインとなった日本ブースでは、前回、群馬県からも出展があったアジサイを使用したブース(オランダではオタクサとして非常に親しまれています)が今回は出展が無く、運営側の方が惜しまれているのが印象的でした。会場では各国それぞれのランドスケープからアウトドアインテリアの提案など、色彩感覚も違えば、まさに植物を使ったアートとしての展示など様々で、多様な園芸文化の集大成といった感じでした。また、変わったものとしてはお掃除ロボットならぬ、芝刈りロボットが大芝生広場を刈っており、改めて技術革新の凄さに目を見張りました。

日本も国際Aクラスの園芸博覧会は2004の浜名湖花博以来開催されていませんが、日進月歩で進む園芸品種の改良や新しいランドスケープデザイン、技術革新など発表の場としての博覧会は世界各国から人々を集め、様々な交流が生まれるもだと強く感じました。

(前橋園芸株・中村敬太郎)

